

823  
MEN2

溪江入楚

竹川

44

竹河

十四歳

其比十四歳より十五歳迄の事

皇太子日薨逝後玉璽を内侍に授け

玉璽を御腹姫君に授け玉璽を御物語

皇太子為四位侍従也 其比十四歳より十五歳迄

十五歳

四位侍従也

正月一日右大臣以下之人々参高侍御許

夕暮右大臣と玉璽君御物語

同日春入道三条宮給

夕暮西四位侍従春高侍給

宰相君詠梅歌

小侍従御酒

同廿余日四位侍従渡友侍従許

為人少将未嘗

四位侍従彈和琴

相似故致仕大臣の音

友侍従歌竹の事

羽音四位侍従送文於友侍従

三月尚侍之侍從君姉君与妹君并碁給夏  
以柗柗為碁懸物夏 右勝之事  
後尚長見院夏

藏人少納言見事

藏人少納言姉君夏

藏人少將來友侍從許憂姉君夏

又來中將房述懷夏

胃上藤生於尚侍御前申念人夏

中將泚伴執申藏人少將夏

九月藏人少將送信息於中將御許夏

母君同春給夏

女六日藏人少將送信息於中將御許夏

尚侍有返哥 秘但姉君之返哥凡

源侍從常春冷泉院夏

見友花事

藏人少將妹姉君夏

御門召中將送信妹姉君入内夏

中將申尚侍給夏

自七月冷泉院御息所姉宮懷妊夏

源侍從春院惟御遊給夏

十六歲

秋為任右中將又任宰相

正月男踏歌夏

春冷泉院夏

源侍從春冷泉院夏

院後御息所泚方源中將春御供給夏

侍從与女房違物語夏

御遊之夏

四月院之御息所誕生女官夏

中姉君入内懷与尚侍職夏

玉鬘上有出家之志夏

十七

十八

十九

秋任中納言

為宰相中將夏

詞云云の中冷源院夏

まゝいひのりしとらん、いふ事の中將とていふ

二十六年に於て秋とて、源侍従とて、其年此秋に宰相中將とあり

三位中將源行川丸大臣 此三位中將は源行川丸將の父

右大臣此のこゝに三位中將といふのりといふは、源行川丸とていふ

く、源を交 右大臣源行川丸大臣 按此は源行川丸

任右大臣兼左大臣 其宰相中將任中納言 三位中將

任宰相 以推本卷考之此陰月に當年秋交

源中納言春玉公等、前尚侍申交事

前尚侍總院沙息不不安御交給事

里居給交

紅梅右大臣大臣食請申兵部令官給交

前尚侍謂紅梅右大臣と板柱君間交

大臣豊目宰相中將春前尚侍御許 宰相中納言七八

行河

白官並二

卷右款并詞有之

四位侍從友倫從前

為人少將と冷泉院女房贈云款

又正月に四位侍從友倫從前同音奇此曲

上件此並いひたり此列傳也 史記に同傳ありといふ

とあり、此物源同傳之列傳いひたりといふは、此物源

此一列といふは、此物源といふと、同傳ありといふ

年此のり法を此とて、其のりといふは、其のりといふ

よりいひたりて、次ノ年ノ正月より七月のり、又次ノ年

又とて、此とて、其のりといふは、其のりといふ

前ノ白官並二に、其侍從十四日、同秋中將加階十九日

此は、四位侍從中納言、是といふは、可といふ

付事、此事、中納言、白を、此、此、此、此、此、此

よりいひたりて、云々、年此のり、付事、是といふ

自文書にて十四ノ月十九日某の如くして卒すは其の事此書に梅の自  
横登れは法代時の先交の横に 自文書にて十四ノ月十九日某の如くして卒すは其の事此書に梅の自  
来ハ又聖の並に 其の末に書中紙に後にも自文の申紙を  
義云可於商流の習ひの並の事よ年紀の義右用之人の右  
之之倣為列傳 法物ノ題一紙附すことよ是也つらき  
松法妙之は法と法書にて 義子傳せし事ありて  
花野ノ義義子一紙附すことよ是也つらき  
卷ノ紙被并詞号之横ノ並に 又其の聖代に 書十四日  
らりといふことよ次のごとく一月より七月までとて又次書  
年の中五十年はありてとありて十年の始りてとあり  
其ノ事大畧に

此の書中此の書に

元

後乃何のとのを無忘れり 前乃事よんくあり  
所をいふ所深く 無忘れ大なる所中のあり深よんくあり  
ひらく此代物と書中此の書よりてとあり

半

凡此物徳と書中此の書よりてとあり 卷ノ作よんくあり  
深中の所をいふことよんくあり 此の書と書中よんくあり  
いふ事と書中よんくあり 其の事此の書に書かれは此の書に  
とありて此の書に 此の書に書かれは此の書に

此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に

此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に

景

此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に  
此の書に書かれは此の書に 此の書に書かれは此の書に



家のゆかり  
もいふれ  
と  
黄  
似  
上  
キ  
本  
脚  
又  
細  
つ

て浮中此等の事あり。事量りくにも許せぬ。此等  
極其毒害の事あり。事量りくにも許せぬ。此等  
事あり。事量りくにも許せぬ。此等  
事あり。事量りくにも許せぬ。此等  
事あり。事量りくにも許せぬ。此等

見花多し

先帝式詔書  
先帝式詔書  
先帝式詔書  
先帝式詔書  
先帝式詔書

次郎君  
先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

先帝式詔書

美之秘ノ美ナリ我ト美ト成ル物ノ用捨也云々秘  
或人云々又いふもあはぬなり

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

秘 云々云々云々云々云々云々云々云々

女  
公  
サ  
タ  
ク  
タ  
ノ  
傳  
声  
ヲ  
女  
リ



此のいさぎ  
後夕芳も重井尾も  
静せしむる

後夕芳も重井尾も

如君と云ふに多し此海も  
舞とて今も

玉うらみ此君を  
如君の父も

のうらみ  
次のとて

ゆきしはつたわ  
舞の送る

こころ  
秘の

ありて  
秘の

さう  
秘の

く  
花腐し又下

六条院の  
秘の

先  
秘の

け  
秘の

四位侍従  
秘の

これ  
秘の

女  
秘の

君  
秘の

う  
秘の

あ  
秘の

の

六  
秘の

あ  
秘の

此  
秘の

心  
秘の

く  
秘の

あ  
秘の

夜  
秘の

夜  
秘の

これ  
秘の



ゆつては位約後 昇りてゆくものありて

大納言中納言の後に付約後とありて

花 善玉うつくしき人ありて 咲いてまき

ついでにゆくものありて 是よりまきとまきと

ありてと 白書

秘 ありてと書とあり 昇りてゆくものありて

秘 世とてねねありてとありて

ひん 一のうつくしきものありて 昇りてゆくものありて

いとせむしとありて

秘 一のうつくしきものありて 秘 昇りてゆくものありて

け ありてとありて 秘 ありてとありて

美 似ぬとありてありて

の ありてとありて 昇りてゆくものありて

う ありてとありて 秘 ありてとありて

ま ありてとありて ありてとありて

り ありてとありて ありてとありて

秘 ありてとありて 秘 ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

秘 ありてとありて 秘 ありてとありて

ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

ありてとありて

ありてとありて ありてとありて

ありてとありて

ありてとありて 秘 ありてとありて

くちしきや

秘りり乃知し美

いさふししの人

あつの花かおのりさふし

梅うえとうそよま

梅うえ

梅うえ

梅うえとうそよま  
梅うえとうそよま  
梅うえとうそよま  
梅うえとうそよま

梅うえとうそよま

つしきやしし中けし

秘りり乃知し美

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし  
女とうそよまのうらうらし  
女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし  
女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

女とうそよまのうらうらし

秘 玉盤此丸をたこしり致仕上居せり  
秘 此丸の中しりた人細云 舟むつりの物し

秘 梅子細くしりて 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し  
秘 舟むつりの物し 秘 舟むつりの物し

竹の踏方此時... 追守をみ踏と云ふは... 中流より踏方... 舟の心を... 舟を... 舟將を

先昔凡但し恨... 舟將を

先昔凡但し恨... 舟將を

舟將を... 舟將を

舟將を... 舟將を

舟將を... 舟將を

舟將を... 舟將を

舟將を... 舟將を

舟將を... 舟將を

拾遺集

拾遺集

拾遺集

拾遺集

竹の葉をさしこれつめたる花をさす家とてささるるささるる  
こゝろにいゆるせとつゝあは

西の葉とゆふの下のと先鞭りて此物後竹の  
うらみさのゆふあふれはけはるまどし

花の葉のゆふ  
さす女とささる

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

松の葉のゆふの下のと先鞭りて此物後竹の  
うらみさのゆふあふれはけはるまどし

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

花の葉

竹の葉をさしこれつめたる花をさす家とてささるるささるる  
こゝろにいゆるせとつゝあは

西の葉とゆふの下のと先鞭りて此物後竹の  
うらみさのゆふあふれはけはるまどし

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

さす女とささる  
花の葉のゆふ  
さす女とささる

十九日

花姫君中君との事

秘 花姫君と中君との事

又云花姫君は中君の事

十八と

花姫君一人の事

前ノ御事花姫君との事

今一と云ふ事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事

秘中君との事



聖人の花の本も

秘 姫君を遊ばせて見ゆ

あつとささくつとわきせ

非 姫君を遊ばせてお

ついでつと見えははらして昔はつとふひつとつとつと

秘 中將のあつとせり

うんぞう君れ

秘 玉鬘の妹とのあつとせり

つとささくつとつとつと

秘 中將のあつとせり

姫君を遊ばせて見ゆ

ひつとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

つとささくつとつとつと

夜おこせしは 秘 秘は次子

空のひらき 秘 秘は次子

中將より多らりて 秘 秘は次子

わらうひらき 秘 秘は次子

鐘山よみて 藤秀と基と 秘 秘は次子

まけて不徳作詩王荆之代 秘 秘は次子

花野よ 秘 秘は次子

花多し 秘 秘は次子

花と 秘 秘は次子

まのり 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

ら 秘 秘は次子

さ 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

ま 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

花 秘 秘は次子

うらとけの家とくらうくらうのついでにそとね  
か將の心匠ういふ物

又ういふもやや 畢後にれりて花のついでにそとね  
これらも後の事とて

君くらいつれわらう 兼姫君とて  
まげうこれ姫君 兼姫君九音基らうし後の事

まうとゆへせよあまうまうまうまうと花とんは  
ひひ後 秘 今うらうの海にまうとてとれた花とついでにそとね

りけうあれいそとて人す將の心  
兼 今うらうの海にまうとてとれた花とついでにそとね

ゆうこれ宰相君 秘 初め君のこころういふ事  
私れて見たはういふまうまうまうのうと兼は後うけ

人と宰相君とてういふ事  
兼 世と兼ういふ事  
兼 世と兼ういふ事

すしあはれれい 兼 兼中君  
あの方君 兼 兼中君

同よりういふ事とての枝ういふ事とて  
兼 枝ういふ事とての枝ういふ事

若しあはれれい 兼 兼中君  
兼 若しあはれれい

花とんはこころとて兼 兼中君  
兼 花とんはこころとて

付ゆうこれ大輔君 兼 兼中君  
兼 付ゆうこれ大輔君

あはれれい 兼 兼中君  
兼 あはれれい

兼 兼中君  
兼 兼中君

花乃の御事  
引らし非表の御事

引らし花白の御事  
引らし花白の御事

秘 神の御事  
秘 神の御事

大免の御事  
大免の御事

花と御事  
花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

秘 花と御事  
秘 花と御事

かゝるにさしつかへなくしよ 秘玉盤にたのみの細

まあやうなる御心なり 美高直北志行のてし 井美

この御美り事して 美仙洞の女御美りの事

私まゝ花にほよまじり

こゝろをせし 美姉妹の君達と一夜の御美り

御美り事御心なり

御心なり事御心なり 秘姉妹の御心

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり 美院御美り此後定し

御心なり事御心なり 秘おね玉盤の御心

御心なり事御心なり 秘奪取

御心なり事御心なり 美世と御心なり

御心なり事御心なり 西の御美りの事

御心なり事御心なり ままに御心なり

御心なり事御心なり 姫君と御心なり

御心なり事御心なり 美らに御心なり

御心なり事御心なり 人々御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり 美信に御心なり

御心なり事御心なり 美らに御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり 美の御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり

御心なり事御心なり 美らに御心なり

御心なり事御心なり 美らに御心なり

御心なり事御心なり 美らに御心なり

このまゝの御  
ゆゑあそびたりしを

秘 中將の女なり

秘 中將の御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り

あそびの御り



かゝのしほ姫君此金阿よ定り治り人只おめ給成さる  
有しうり御の基のうす并しうりよと違事してととらり  
そのしほに御への御の今も由違事のしほに御生  
とまうしよお將の七代に姫君の御を遊しわらそと

又の日記御月よ

美和月百れ事し

秘 平座うとらり

うらよ美和月御月よ 御月百い句ふくれい平座う

お將の兄青丸らけ後り春由

いしうりしうり 美和月御のしほり

おわらしはあそとそと 秘 美和月御

御れしうりし 秘 夕音れ事し

御れしうりし 冷泉御

御れしうりし 秘 夕音れ事し

御れしうりし 秘 夕音れ事し

美 常よ念法にけ取もあすす 秘 正月一日は後合志のしほり

お將しうりしうりしうりしうりしうりしうりしうりし

うらよ美和月御月よ

夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり

美 夕音れ御月よ 美和月御のしほり



めい... 義... 小やい... 切也

くさ... 義... 切也

と... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

お... 義... 切也

九月... 義... 切也

太上天皇納妃例... 寛平法皇以京極前皇孫為妃

四月九日... 玉... の嫡女院之漸

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

秘... 皇... 井... 氏...

兵衛佐曰七男四位少将母雲井厚

上古ハ折園乃子息ニ難役ト勸セシ其世ノ中古以來

代ヨリ親シハ古臣以上此子孫是ト勸ルハ付物法ト云

大禮を度しり也

秘 红梅大長(并)

お乃うこと

秘 此世名を真本相君と別腹は事之し也

お乃うこととまされりこと

红梅此方ハ折園乃乃嫡女枝根也 母武部河内女共今院高

相君と別腹此兄弟之紅毒と云は折園大長兄弟何れも

在中納言り也

秘 折園是れ息枝根此君に腹此兄弟也

事とつり家納言曰兄弟も喜ばず折園も事とつり

此れお乃うこと

秘 人(の心)

建ののよきこと

秘 媒セし申相此事也

今ハうきりことと云ひし事

秘 人(が)お乃うこと

お乃うことと云ひし事

中將の事也

お乃うことと云ひし事

秘 折園は事とつり

相君と此れ又のことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

秘 折園ハ折園又母お真ト云ひし事

お乃うことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

秘 今ハうきりことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

秘 折園の事也

相君と此れ又のことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

秘 世の事也

秘 今ハうきりことと云ひし事

お乃うことと云ひし事

秘 中將ノ事也

何れそまじしつら 義士のまじしつらのつらしつら

つらつらつらつらつらつら 小將の心を

ありとありしつらつらつら 義士小將の心を

<sup>秘</sup> 今院一系りのつらつらつらつら

私時義士の威を尊しつらつらつらつらつらつら

きつらつら 秘歴をそつらつらつら

多つらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

<sup>秘</sup> 今院一系りのつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

<sup>秘</sup> 今院一系りのつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

<sup>秘</sup> 今院一系りのつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

つらつらつらつらつらつらつら 秘歴をそつらつらつら

松の女御はあつた

秘 玉盤の先月の女御し 昇

久よまのり

秘 冷泉院し 昇

さくら女御 秘 后の秋好し 女御の玉盤の妹と

秘 院の事し 昇

くし乃若し

秘 玉うし 昇

心しりて 玉盤の院は遠近もわたり 冷泉院の事

秘 院の御心し 昇

源仲俊乃若

つらつら

院のつらつら 冷泉院の院中に入りてはしりし 院の事し 昇

の御しつらつら 秘 院の御心し 昇

そまのつらつら 秘 院の御心し 昇

秘 院の御心し 昇

の御しつらつら 昇 今女御し 昇

松の女御の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

松の御心し 院の花松より 院の事し 昇

いと心まじりや

秘うりあの名し 昇

のあねを

昇上の約又交りも意は

あつと意かぬくし 是れ中より日よりうらみこころ

あつて中つ建原

秘あ將の中君の心とて

夕暮を為れ中といふと意を成し申君とゆふを

御しこの君とら

夕暮れ君とら 冷泉池

かゆをけ始君よりゆきて後流来に

内は成せしれゆき一節の人家 范田裏

昇

今上此事し

秘

成をいふは内事りゆき

中將とありて

昇

成を中將より任事し

秘

成をいふは内事りゆき

世人もいふことなり

秘中將より任事し

冷泉池の行ふは世を成す事

いふことなり

秘中將の心とて

いふことなり

秘成をいふは内事りゆき

いふことなり

秘成をいふは内事りゆき

いふことなり

秘成をいふは内事りゆき

いふことなり

いふことなり

秘成をいふは内事りゆき

いふことなり

いふことなり

いふことなり

秘

成をいふは内事りゆき

秘

成をいふは内事りゆき

いふことなり

秘中將の心とて

秘

成をいふは内事りゆき

いふことなり

中まといししるしをいふは流の女御と云

秘 明石中まといししるしをいふは流の女御と云

これいふはしるしの中まといししるし

しるしをいふは流の女御と云

秘 明石中まといししるしをいふは流の女御と云

女御は流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

中まといししるしをいふは流の女御と云

秘 明石中まといししるしをいふは流の女御と云

これいふはしるしの中まといししるし

しるしをいふは流の女御と云

秘 明石中まといししるしをいふは流の女御と云

女御は流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

流の女御と云

以下喪持上人之行列 次亦未其後於中院習礼二之度二日  
於中院試樂

四位御使在此等以下  
右款以前勅之

右此くく一本に款以下り

兼并以下之人 榎波子津樹各一領 款掌以下舞人 已上子津 兼各一領 樂人九人一領

十曾此月 式日

御前より初て冷泉院へ 奥安んより内裏より也

延政十五正十四瑞奇泰而高侍并一親王宿而本と

まを海も 秘介此如あくくしりて沙島而と之り

右の太友致仕此大友れくくくくくく

秘ク身致仕大友の御此くくくくくく

冷泉院へ 秘冷泉院へ

冷泉院地の上よりくくくく

見よりくくくくくくくくくくくくくくくく

秘端方れくくくくくくくくくく

八日被定瑞奇之度内裏寮可奉 怡綿女依細此綿一連根新

綿十連 綿花断綿二屯糸三兩調進 伴綿花之綿給作物琴

削纏之凡右門官人杖女五枝進之 然義綿花杖分

竹のくくくくくくくくくくくく

内裏くくくくくくくくくくくく

出落くくくくくくくくくくくく

先發調子 踏歌 三及 奏祝詞 並持 奏箱鴨 此殿曲者

座管絃 酒肴饌 吹調子 唱竹川曲 即立座列立

如前并目唱之後 兼人及兼内侍二人方被綿且兼目退彈和

琴 自篇中出 奏我家曲退出

此のくくくくくくくくくくくく

兼人の將の心三月七日 兼の持のれくく

くくくくくくくくくくくく

兼人の是くくくくくくくくくく

きくくくくく

光明石中宮

私に義なり秋好中へ

うらむらむら

義秋好の音

と冷泉もあつた

ひかりのこころ

秘か得れ心の鬼

花

秘か得れ心の鬼

結奇の飯澤

日花多は乃

えぬと云ふ

方

あつた

おしとん

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた

あつた



しるはるの... (left column)  
て... (second column)  
梅... (third column)  
り... (fourth column)  
れ... (fifth column)  
あ... (sixth column)  
月... (seventh column)  
く... (eighth column)  
ふ... (ninth column)  
御... (tenth column)  
う... (eleventh column)  
ら... (twelfth column)  
さ... (thirteenth column)  
と... (fourteenth column)  
わ... (fifteenth column)  
又... (sixteenth column)  
何... (seventeenth column)  
な... (eighteenth column)  
な... (nineteenth column)  
な... (twentieth column)  
な... (twenty-first column)  
な... (twenty-second column)  
な... (twenty-third column)  
な... (twenty-fourth column)  
な... (twenty-fifth column)  
な... (twenty-sixth column)  
な... (twenty-seventh column)  
な... (twenty-eighth column)  
な... (twenty-ninth column)  
な... (thirtieth column)

な... (left column)  
な... (second column)  
な... (third column)  
な... (fourth column)  
な... (fifth column)  
な... (sixth column)  
な... (seventh column)  
な... (eighth column)  
な... (ninth column)  
な... (tenth column)  
な... (eleventh column)  
な... (twelfth column)  
な... (thirteenth column)  
な... (fourteenth column)  
な... (fifteenth column)  
な... (sixteenth column)  
な... (seventeenth column)  
な... (eighteenth column)  
な... (nineteenth column)  
な... (twentieth column)  
な... (twenty-first column)  
な... (twenty-second column)  
な... (twenty-third column)  
な... (twenty-fourth column)  
な... (twenty-fifth column)  
な... (twenty-sixth column)  
な... (twenty-seventh column)  
な... (twenty-eighth column)  
な... (twenty-ninth column)  
な... (thirtieth column)

中  
女  
房  
行  
秘  
身

らりとのは早り

あしこの向う 美善し 後さす 後さす 後さす

けりまてあめいし けりまてあめいし けりまてあめいし

母の音なり

秘 美善なりし けりまてあめいし けりまてあめいし

母の音なり けりまてあめいし けりまてあめいし

人の音なり けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

母の音なり けりまてあめいし けりまてあめいし

わたりしことさる 秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

女樂のしり

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

秘 けりまてあめいし けりまてあめいし

こらうしあし... 秘下まき

美之は美りる美れ... 秘下まき

らとあつらふ

ふらふら... 秘下まき

美を流れ... 秘下まき

これのよき... 秘下まき

ゆのみ... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

去年七月... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

ゆり... 秘下まき

お母さんお水子とありして

秘嫁母と出立事なれと

女友の事なれとありして

冒すも他はとてなれとありして

肉の嫁母は中君とありして

之にありして

以高侍讓子例可劫 兼旧例と劫て儀行

相續之例打きやせとありして

父ノ穢と子ノゆつると例とありして

尚侍と女ノ事なれとありして

怪せれ今れ世も女友とありして

は君の御すやとありして

すも女の事なれとありして

うらすとありして

母の事なれとありして

が持の事とありして

并れ君とありして

内侍とありして

さかふありして

ましとありして

日の事とありして

大座りして

秘公役とありして

公役とありして

あましとありして

私后女御とありして

とて其儀とありして

又ひとありして

秘明石とありして

明石とありして

秘嫁母とありして

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

兼 浦中のみせとありて即ち...  
...とありて...  
...とありて...

この今交と付 美と成れ此從生乃若交し

女一交とくきりみだわよ 弘羊友の女少服

女少し相中しりりしてこの 此從生の務りけり

此從生ありしと女交若交歴ことありして女一交此威光お

それのくはあしとてかきまう此と交るをいそきまうあれ魚

世れして 秘世此ありし中其れをたは理とあはれ

久しきりあく少くはとて

美 秋好と弘羊友との二之は乃理と付て交とあといふこと

御せよとの教とらよ 中納年表

さうくしきまはに 美玉うこれ中

さうりあはしりあて 美うさりのあはれをたはれ

のうてい交つていひまきまきとてさうりこれあ

あきんいひあまのよ 秘玉うこれ中

あきんいひこれ 秘世かおと松とて交と心あはれ

あきりり 秘界をさり 美 是のあはれ時ゆり

さうりあはれ 美うさりのあはれをたはれ

さうり交はしりあてのあ

宰相此中將を自あわりのと 美自交事と同時とて

てあわわりのと曰約とひり 史記筆法これ

秘 自交事よ美十九歳と宰相とすり

あきんいひとてあわら大 秘ありと舞はる人さ

あきんいひとてあわら大 美玉うこれ中

あきんいひとてあわら大 美玉うこれ中

あきんいひとてあわら大 秘世かおと松とて交と心あはれ

あきんいひとてあわら大 美玉うこれ中

あきんいひとてあわら大 美玉うこれ中

あきんいひとてあわら大 秘院中此あはれ

あきんいひとてあわら大 美玉うこれ中

あきんいひとてあわら大 美玉うこれ中

秘 美玉うこれ中

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中後石分明

果竹のたれ大長門事ししめて書之れ

竹のたれ大長門事ししめて書之れ

乃のこころなり 秘中表しれ心しけりなり 果

秘中表しれ心しけりなり 果

秘中表しれ心しけりなり 果

文とす和局とけりなり 秘中此秘事知りなり

内のみへあり 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

大長門公此はしとめとえりつれと 秘中此秘事知りなり

はうのちの中細をよ 秘 兼中細を此夏御梅事より南行

兼 印柄をよも兼と係中細をよまけしけ所はまを 屏を此御梅事  
其より御報わつる前より治せり 秘 私を並し事とて之を御梅

とみまの年紀御報のより前より別より夏御梅 南行用之  
之位の君の宰相の如て 秘 前より別より将より

并 夕旁此息之位中將宰相の如し 秘 夕旁此一族  
この沖をよしりなり 秘 夕旁此一族

は二三つおをよしりなり 秘 夕旁此一族  
私と申二つとつし字なり 秘 夕旁此一族

も皆夕旁と道とゆりなれし 秘 夕旁と致仕在る  
一族とてし 秘 夕旁

中細をよしりなり 秘 兼中細を此夏御梅事より南行  
御梅の事をよしりなり 秘 夕旁

并 親腹の事をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

ておをよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁

夕旁をよしりなり 秘 夕旁  
夕旁をよしりなり 秘 夕旁





西平子とく 秘人此親とて物とをふりあひし人の心此  
程とがく 羨く大板のうらと云は山幸此程にけし  
衆といひし 大やよまのうらと云し  
まをすももやうと云 けりこの非をうり

兼合衆院のうらと云し  
宇治此姫君此心と云りて 推す本此中なりと云ふは

宇治の文此姫君此事に梅をよみしより同好し

宇治八文此姫君わけまはる此君此よし 秘衆

けりいなりし 人の親とてと云りて是より甚此心

内侍此心と云ふはまはるし 中君も里よがらぬ也

けりいなりし けり此心なり

けりいなりし けり此心なり 甚と舞を

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

けりいなりし けり此心なり 秘 紅梅大板なり

とすうれくろのりて 夜帳を此方より隣此の方まで

秘 ありつゝ此方の果をれんとすうれ

兼 石橋大長此家の事

じうのちのち 秘 此帳を此大長食のものとすうれ出す

なまうせのりてりまけりてのりつゝ

秘 高木村君言無事にてまうせ後やうに証書たる旨通の

事此わらうも証書なりしうもくてもりすも申くやう

とむらうの家の女心うらたに合せしむ

秘 言無事にてまれゆく 甚後高木村の君は証書たるわらう

りこの根よちのりて又けまを申さうに申すてり

世ののらうもこれとむらうの親しめ

兼 言無事にてまれ後 石橋此家 言無事たる事とすうれ

とすうれ 兼 石橋此家 細い人いふは決行といひ

あこめあの世や 甲 此帳を此方とすうれ

時並に 後方のいひわらうのりてのりてり

いふ事ありしとすうれ 兼 高木村君は今時とけりてり

言無事の後にまのりてり 中系は好とて又帳を此方に

とすうれのりてり 又時よなるらわらうに證りつゝ

とすうれ 兼 高木村君の子と果敢とすうれ

凡乃大長此宰相中将 此 高木村君の良宰相

秘 証書あり

いりやまのりてり 兼 高木村君の今時とけりてり

ひととすうれ 兼 高木村君の今時とけりてり

大七八れりやの 秘 宰相中将此事 兼

見くうの君いり 兼 此帳そのいりてり

は 此帳そのいりてり

は 此帳そのいりてり

は 此帳そのいりてり

は 此帳そのいりてり

秘 此帳そのいりてり

加茂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

友俊のつとせきしは

友俊のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

右中弁のつとせきしは

長坂のつとせきしは

右中弁のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

まゝおとこし

北条義時

長坂のつとせきしは

北条義時

長坂のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

まゝおとこし

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

長坂のつとせきしは

別してうけかゝる人

宰相いささか

并々吾れ息宰相中務

玉警の立ふとつゝしこころ女ののりといふは

私宰相いささか耕田中務

とて流る後登紀詠而凡 已上再

息宰相中将藤人將是しむつてれうふとそ

あふと出るあゝとこえし又義ふけいあゝのうひれ

ふらぬいささかといふはけ約耕田本そくは

私云ふつてれ所也冷東流いささか

くさねとて里流いささかといふは宰相中務いささか

いささかねらりてはさしこ中ねれあゝとやとあゝ

といふとつゝいささかいささかいささかいささか

いささかいささかいささかいささかいささか

事義因いささか

梨花のほほえみ

竹の

花のいささか

女れいささかいささかいささかいささか

いささか女もいささかいささかいささか

双調いささかいささかいささかいささか

いささかいささかいささか

いささかいささかいささかいささか

いささかいささかいささかいささか

物いささかいささか

